

七里地内における砂防指定区域及び洪水浸水想定区域について

新文化会館の建設候補地である七里市有地の一部が砂防指定区域及び洪水浸水想定区域に指定されており、市議会特別委員会より土地利用に関する法的規制や安全性について説明を求められたことから、別紙参考資料 2 に基づき説明を行った。市議会特別委員会からの主な質疑に対し以下のとおり回答した。

市議会特別委員会からの主な質疑に対する市の回答について

○特別委員会からの質疑

- ・七里地内候補地から志渡淵川約 1 km 上流に、土砂災害警戒区域と急斜面地の土砂災害特別警戒区域が川沿いに約 2 km に渡って指定されている。大雨が降って志渡淵川の水嵩が増え、万が一土砂崩れが起きた場合、その土砂は七里地内候補地の方に一斉に流れてくるのではないかと懸念されている。その影響で川が氾濫することを市は想定しているか。市には公共施設を安全な場所に建設する責任があるため、もっと深くハザードマップを調べるべきである。

(市の回答)

- ・志渡淵川上流に土砂災害警戒区域等の指定があることは確認しているが、七里候補地は、土砂災害警戒区域等のエリア外であるため、直接的な影響はないと捉えている。なお、溢水の恐れのある全ての河川を改修するとなると多額の費用が必要となることから、日々の管理が重要である。法的な制限はなく建設は可能であることから、ハザードマップに示されている情報を活用しながら避難等の迅速な対応ができるよう検討する。

- ・浸水対策については、浸水しても大丈夫だと言えるような物理的な対応を示してほしい。

(市の回答)

- ・物理的な対応については、「土地の高さを上げる」、「電気設備類は高い所に設置する」、「止水板や防水壁で水の侵入を防ぐ」などの対策が必要と考えている。検討にあたっては、栃木県日光土木事務所や防災関係者の意見を聞きながら安全を第一に考えて進めていく。

- ・一方、平ヶ崎地区においても、二宮堀が溢水したとあるが、現在のところに建設した場合はどのくらい危険なのか。二宮堀を改修した場合は莫大な費用が掛かると思う。選択肢の一つとして、市民に説明ができるような最低限の情報は出してもらいたい。

(市の回答)

- ・二宮堀が溢水の危険性があることは認識しており、その対応として清掃・点検等の管理を適切に行っている。河川改修等による根本的な解決は困難であるため、新文化会館を建設することになった場合も、小まめな清掃や点検を継続していく。

- ・市民委員会に洪水浸水想定区域の説明をしたうえで、各委員からの意見を聞き、慎重に検討してほしい。

(市の回答)

- ・市民委員会へはこれまで説明をしておこななかったため、改めて洪水浸水想定区域について説明し意見を聞く。